

答 辞



春風がそよぎ、新たな芽吹きが彩りを添える季節となりました。

本日は、私たち卒業生のために、このように素晴らしい式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。船田理事長ならびに渡邊学長をはじめ、ご来賓の皆様、そして教職員の皆様に、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

4年前、私たちはそれぞれの夢や期待、そして不安を胸に、この学び舎の門をくぐりました。新しい環境に戸惑いながらも、講義やゼミナールでの学び、部活動やサークル活動、アルバイトなど多様な経験を重ねる中で、少しずつ自分の歩むべき道を見つけていきました。多くの仲間と出会い、語り合い、励まし合いながら過ごした日々は、かけがえのない時間です。

私自身、硬式野球部のマネージャーとして活動する中で、「ささえる」立場の責任と誇りを学びました。表に立つ選手の陰には、支える者の努力があります。試合の勝敗に一喜一憂しながらも、選手一人ひとりの思いに寄り添い、組織がより良い方向へ進むよう努めてまいりました。支えることは、決して目立つものではありません。しかし、互いを信頼し合い、それぞれが役割を果たしてこそ、組織は真の力を発揮するのだと実感いたしました。

近年、世界各地では紛争や災害などにより、困難な状況に置かれている人々があります。1日も早く、穏やかな日常が戻ることを願うとともに、傷ついた社会が再び力を取り戻すことを祈っております。このような時代だからこそ、私が強く感じるのは、「誰かのために力を尽くすことの尊さ」です。一人では続けられなかった日々も、多くの人との出会いと助け合いがあったからこそ乗り越えることができました。大学生活において、経験はそれぞれ異なりますが、私たちは誰かを支え、また誰かに支えられて歩んできました。その支え合いがあったからこそ、本日この日を迎えることができたのだと思います。

また、大学生活の中で私たちは、知識や技能だけではない「人としての力」を養ってきました。急速に発展するAI技術は社会を大きく変えつつあります。しかし、どれほど技術が進歩しても、人が人を思いやり、対話を重ね、葛藤の中で答えを導き出す力は決して失われません。仲間との議論で培った思考力、違いを受け止める姿勢、そして誰かのために行動する力、これこそが、これからの社会において真に求められる力であると信じています。

本学の建学の精神である「作新民」には、時代に応じて自らを新たにし、社会に貢献する人材を育成するという願いが込められております。私たちは、4年間の学びを通して、自ら問いを立て、他者と協働し、新たな価値を創り出そうとする姿勢を育んできました。それはまさに、「作新民」の精神を体現する歩みであったと感じております。

本日、私たちは卒業という節目を迎え、新たな社会へと踏み出します。これから先、多くの困難や迷いに直面することでしょう。そのような時こそ、本学で得た学びと、支え合いの中で培った経験を胸に刻み、他者のために力を尽くす姿勢を忘れず歩んでまいります。そして、変化の激しい時代にあっても自らを磨き続ける「作新民」として、それぞれの場で責任を果たしていくことを、ここに力強くお誓いいたします。

最後になりますが、今日まで温かくご指導くださいました先生方、支えてくださった職員の皆様、そしてどんな時も見守り続けてくれた家族に深く感謝申し上げます。併せて、在学生の皆様とのさらなる成長と、本学のますますの発展を心より祈念し、卒業生代表の答辞とさせていただきます。

令和8年3月15日

作新学院大学 経営学部 スポーツマネジメント学科

卒業生代表 小森谷 聡美